

第70次湘南教研～湘南教組は語り合う場をなくさない～

2月12日に第70次湘南教研を2会場4分科会で開催しました。

各分科会では、テーマに沿った話題や、レポート作成、専門部ならではの苦労や悩み、他地域や他校の様子など、ざくばらんに座談会のように話し合いがすすめられました。

コロナ禍で教育活動を行う中で、大変だったこととして、話し合いやグループ活動に制限がされていたこと。個で考え、個で表現する。最近は少し解禁されてきたけれど、発表したくない子にとっては、よかったのかも知れない。

三密とはいっても、授業中はソーシャル・ディスタンスを保たれていても、休み時間になれば子どもたち同士、くっついたり抱き合ったりしている。それを引き離すことが最善のことなのだろうかと悩んだ。

音楽では壁に向かって歌ったり、少人数にしたり、リコーダーなど吹く楽器が扱えない状況で、リズム遊びで終わってしまったり、授業を体育館で行ったりしている学校もあった。地域によっては、5教科中心で、音楽は週1に減らされている学校もある。音楽専科のいない地域があり、担任が行うが歌えない、エアリコーダーもだめ、打楽器中心の授業。コロナ予算で、打楽器を申請するも、はじかれてしまい購入できずという地域もあった。欲しいものが購入出来ない、市教委が勝手に購入したものもある。

給食では、教員が配膳するにあたって、1人でも配膳しやすいメニューを考えてもらった。今は通常に戻ったが当番は最少の人数（教員+2人）で行っている。トングの使い回しをしないで、担任（当番）のみが使うようにしている。ある学校では、給食中に教育番組を観たり、クラスで音楽を流したりしている。給食時間を委員会で盛り上げたが、盛り上がりすぎて困ったという話も出た。他の学校では、給食中のおかわりは、おかわりなしにして、子どもが立ち歩かないようにしている。お箸など、他の人のものをなるべく触らないように、マイ箸、マイスプーン（夏まで）を用意させた。牛乳パックは、当初開かないで捨てるから、開いて捨てるに変わった。子どもが濃厚接触者にならないように、教員の食べる向きも変えた。教員のリスクはどうなるのかと？他地域では、給食のコロナ対策にも違いがあるようで、教員の向きや、当番など市から厳しく言われていない地域もあった。

行事については、校外学習は全てなかったので、授業は追いついた。歩き遠足は行けた。電車の使用を計画していたが、管理職から「保護者が不安になるかも」と言われ、控えざるを得なかった。八景島シーパラダイスを貸し切る予定で計画していたが、緊急事態宣言が延長されて中止になった。また、そのことが、保護者、児童に知られるよりも先にTVで報道されてしまった。

運動会は、ダンスと徒競走、授業参観形式で保護者の入れ替え制で行った学校、保護者と他学年に見せるため2回実施した学校もある。各学年種目1つ、全校実施、保護者の参観なし。徒競走と障害物走、学年種目1つで午前中、保護者2名まで。それにプラスして、応援団長がいて声は出さずに旗振りをした学校もあった。グラウンド改修工事のために、グラウンド1/3でダンスのみ行った学校もあった。コロナ禍において、種目などの見直しがされたのはよかった点であった。

1時間程度の分科会でしたが、湘南3市1町でも、これだけ市町や学校によって違いがあり、コロナ禍において日々の教育活動や労働環境が混乱しているのだと、現場の教職員の声がありました。参加者から「分会の情報交換ができるのは組合だからこそ！と思いました。密を避けるということで、組合としての集まりがないことはプラスではないです。ぜひ、工夫してやりましょう！」との感想をいただきました。第71次湘南教研に生かしていきたいと思います。

参加者のみなさん、ご参加ありがとうございました。

第70次 県教研

1月16日、17日に県教研（かながわ教育フェスティバル2020）が開催されました。

16日に「感染症予防のための学びと子どもの心のケア」「学びの継続のための教育条件整備」の2分科会、17日に「新型コロナ禍における教育格差」「臨時休校における学びの保障と再開後の教育課程」の2分科会が行われました。

多くの分会員の参加ありがとうございました。Web開催ということで、「対面式より気軽に参加できる。」「育児している身としてはとても助かった。」などの良い点や「オンラインだから気軽に質問することができなかった。」等の課題点も参加者のアンケートから浮かび上がってきました。

参加者からの感想を紹介します。

今回の休校中のオンライン授業の実施は手段の目的化だったのだという反省をふまえ、休校中に子どもたちを孤立させないことや学びの不平等感（環境が整ってつながれる子とつながれない子がいた）を改善するために、本来なら休校明けに動くべきところなのだろうが、学習の遅れをとり戻すことに時間を費やした。また、この状況下でもできる行事の設定等に教員が勤務時間を大幅にオーバーして、個人の努力でやりくりしていかなければいけない現状があるということについても改めて考えさせられた。

コロナ禍で今までできていたことができず、私たちは『今できることは何か』をしっかりと考えていかなければならないと感じた。特に子どもたちのつながりは、子どもたちの成長・学びに必要なものである。オンラインでは、なかなか『つながり』を作っていくのは難しい。こういう状況だからこそ、子どもたち、保護者、職員同士の『つながり』を大切にしていかなければいけないと思った。

第70次 全国教研

1月23日、「平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立」をスローガンに、「憲法・子どもの権利条約を生かす教育改革を実現するため、ゆたかな学びを保障するカリキュラムづくりをすすめよう」をテーマに、第70次全国教研が開催されました。今次大会は新型コロナウイルス感染症拡大の防止のためにWeb開催となりました。

清水秀行日教組中央執行委員長は、主催者挨拶で「学校生活では『新しい生活様式』の下、子どもが我慢を強いられ、心身のストレスや将来への不安を抱えている。地域や保護者と連携しながら失われた学びに代わるとりくみを工夫し、実践していくことが必要である。」と提起しました。また、基調報告では、「豊かな学び」を学校現場から創造するカリキュラムづくりのとりくみをすすめることを確認しました。

続いて、安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト）から「写真で伝える紛争地域、被災地の子どもたち」と題した講演を受け、紛争地や被災地の子どもたちの写真を見ながら、人権や社会問題について考えました。

シンポジウムでは、小中高の子ども、教員、保護者が出演し、「新型コロナウイルス感染症拡大状況と子ども・学校・社会」をテーマで、臨時休校中の学びや再開後の授業と行事、友だちとのコミュニケーションなどについて報告がありました。

全国教研の成果については、還流活動にとりくみ、日々の実践に生かせるよう、職場からの組織的な教育研究活動を推進していくことが大切です。

文科省2021年度予算

新しい時代の学びの環境整備(義務教育費国庫負担金)

現在、小学校 2 年生については、すでに加配措置により 35 人学級が実施されており、来年度については、加配措置されていた内の 3,000 人を基礎定数として振り替えることで対応するとしています。また、2022 年度からの小学校 3 年生以上についても、さらに加配定数のうち 3,000 人を基礎定数に振り替えるとしています。

神奈川県では、2011 年度より小学校 2 年生においても 35 人学級を行ってきました。本来は、指導方法の改善や少人数による授業のための加配定数を、小学校 2 年生の 35 人学級に優先し、加配定数を 2 年生の担任にあて、級外職員が少ない状態でとりくんできました。今回の文科省の予算要求、義務標準法の「改正」では、これまで行ってきた加配定数を基礎定数化されただけになるので、教職員定数の抜本的改正になりません。

現段階では、2022 年度以降も加配定数を基礎定数に振り替えることが継続されることになっており、これまで行われていた指導法の工夫改善(専科指導・複数指導など)を行うことが困難になることが予想されます。

義務標準法の改正と加配定数の振り替えではない教職員の純増を今後も日教組、神教組に結集して意見反映することが重要になります。

“政策では負けたが、財政の影響はほとんどない”とある財務省幹部の発言が報道された。

執行部のつぎやき

「あなた、イキてますね！」

大学の昼休み、少し年上の女性から声をかけられた。話を聞くと、これからクリスチャンサークルの会があるという。少し前にカナダの留学生ダンと話をしていた。

「ダンには信仰心とかあるの？」

「ないよ。だって正解が一つなんて、決めつけるのはもったいないじゃないか。」

私にも信仰心はない。でもその方は韓国の留学生で、チヂミとのり巻きをふるまってくれるらしい。

「じゃあ、行きます。」

どうやら「イキてますね」は「イケてますね(イケメンですね)」と言いたかったようだ。わるい気はしない。そんなことは他の誰にも言ってもらった試しがなかった。韓国流手料理はおいしくて、その後たびたび会に参加した。そうして多くの留学生と友だちになった。

3年生のころ、ロシアから来たばかりの二人とランチに行った。すれ違いざまに友だちに「わあ、両手に花だね！」とちゃかされた。首をかしげる彼女たちに意味を言うと、「なるほどね。」と笑っていた。

留学生たちが暮らす国際寮はとくに思い出深い。10人ぐらいの友だちと当時開催中のワールドカップを観ようということになった。やはりツマミはチヂミである。スキンヘッドの男性が一人、ドアをノックした。手には缶ビールのケース。集まったみんなは「知らない人？」と首をかしげる。聞くと他の大学に通うスペインの方で、なんということはない、一緒にサッカーを観ようというのだ。卓を一緒に囲む理由はそれだけでよかった。私たちは友だちになって、その日の夜を過ごした。

ふと大学時代を思い出すと、そのオープンな暮らしぶりが他人のようにうらやましくなる。旅行とか行きたいなあ。子どもにもいろいろなものを見せてあげたい。公園でどんぐりとか、野良猫をながめるのも悪くないけどね。来年はいい年になることを期待したい。



「お米一合運動」のとりくみ ありがとうございました。

湘南教組 130 kg、県内の労働組合から約 3 t のお米が集まり、生活困窮が広がるひとり親世帯等に届けることができました。ご協力ありがとうございました。

4 月に「フードドライブ（お米一合運動）」と「タオル一本運動」を実施しますので、引き続き積極的なとりくみをお願いします。

湘南教組 当面の活動予定

日程	予定	開始時刻	場所	対象
3月12日（金）	地域協議会（鎌倉）	16：30	鎌倉芸術館	分会長
3月15日（月）	地域協議会（藤沢）	16：15	湘南教育会館	分会長
3月16日（火）	地域協議会 （茅ヶ崎・寒川）	16：30	湘南教育会館	分会長